

令和5年度

芝田小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

児童一人一人が、生き生きと活動する学級集団づくりをするとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。

- 自ら学び、互いに高め合う授業の実践
- ICTを適切に活用して学習効果を高める授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 田原裕介

委員 校長：西川栄展 教頭：内藤雅文
 1年(研修, 教務主任): 森北育代 2年: 笠原明恵
 3年: 小路佑実 4年: 橋本真奈 5年: 上田祥平
 6年: 津田真里 わかたけ1組: 高浜ゆき
 わかたけ2組: 田原裕介
 わかたけ3組: 林 裕子 養護教諭: 濱田莉々子

校長
西川 栄展

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観、共通理解・共通実践後のアンケートや校内研修での話し合いにより、取組状況を把握する。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○大切なことを落とさず聞く習慣が身につけられており、各教科において基本的な学習内容は概ね身に付いている。 ●学力の二極化が見られ、約10%の児童は、「学校で学習したことが十分理解できていない」と考えている。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それを様々な学習場面で活用することができる。 ・学習のきまりや方法を習得し、進んで自分の考えを発表するとともに、辞典や資料、ICT機器から様々な情報を適切に収集し活用することができる。	・個に応じた指導を継続しながら、身に付けた基礎・基本的な知識技能を様々な学習場面でも活用できるように指導する。 ・学習規律や学習方法を発達段階に応じて指導し、児童相互に意見のキャッチボールができるように語彙力をつけさせる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○小集団での話し合い活動においては、自分の考えを進んで発言することができる児童が増えてきた。 ●「登場人物の心情を叙述を基に読み取る。」ことができていない児童が38%にとどまっている。	・協働的な学習に積極的に取り組むことで、自分の考えを広げたり深めたりできる。 ・語彙を増やし、叙述にそって読み取ることで、自分の考えを適切な言葉で説明し、豊かに表現することができる。	・自力解決の時間を重視するとともに、練り上げの場面では、それぞれの意見や考え方を筋道を立てて発表させたり、文章に書かせたりして、協働的によりよい解決ができるようにさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭学習や朝読書の習慣が定着してきている。 ●「疑問に思うことや分からないことを自分で進んで調べている」と答えている児童が59%にとどまっている。	・目標をもって学習に向かい、疑問点や興味関心のある事柄を進んで調べたり学習を深めたりできる。 ・学習過程において、学びを振り返る時間をもち、学習の達成度や自分のよさ、今後の課題等を自覚することができる。	・学びを振り返る時間を必ず取り、新しい課題や、疑問に思うことをICT機器等を効果的に使いながら、興味関心を持って自ら調べたり、積極的に解決の方法を考えさせたりする。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

